

「貪欲でなく神への感謝」

ルカ 12 : 13-21

堀田修一 25・5・18

本日は、礼拝後に決算総会があります。主の祈りに答え、私たちの日ごとの糧と教会の必要を満たしてくださる神を覚え感謝しましょう。本日の箇所から貪欲の罪に警戒する事と私たちに、いのちと日々の必要を与えて下さる神を覚え感謝することに心を向けましょう。

I 「どんな貪欲（原語：貪欲、欲深い、当然受けるべく分以上に要求する、人を出し抜く、欺く、策略、詐欺、だまして不当に儲ける）にも気をつけ、警戒しなさい。人があり余るほど持っていても、その人のいのちは財産にあるのではないからです」：15。現代の私たちにも当てはまる警告です。

1. 貪欲は、私たちにも、すべての人にある。神から離れた罪人である人間の心には、貪欲の罪がある。十戒の最後の戒めは「隣人のものを欲してはならない」（別訳「貪ってはならない」出20：17）。

2. 同じ原語の中に貪欲と詐欺の意味があることは興味深い。現在世界中で、多くの詐欺の事件が起きている。詐欺グループだけではなく、世で信頼されている金融機関でも、その社員である人が預けられた大金を盗んでいる。詐欺や盗み等で大金を人からだまし取る罪を、神は神の時に正しくさばかれる。と同時に、詐欺にかかる人の心にも貪欲があることを覚え、私たちも自分事として、祈りつつ気を付け、警戒したい。「自分は、大丈夫」と思い上がってはならない。私も、すべての人も、貪欲な心、つまり、「すぐに、手軽にお金を増やす方法があります」という誘惑に引き付けられる罪、誘惑に弱い心があるということです。このみことばは、昔も今も、私たちに非常に大切な戒めです。

3. 株がすべて悪いとは言えない。しかし、株や儲ける事、ギャンブルに「支配されること」が悪、罪です。すべての与え主である真の神ではなく、お金という偶像を神として拝み、だんだん、支配され、正しい道に戻れなくなる。※私の知人から聞いた実話：その知人の知人は、株のプロのように、生活の全てを株で儲けることに人生の全てを使っている。彼の部屋は、株の情報を知るためのコンピューター、機械で埋め尽くされている。株は、大きく儲ける時もあれば、大損をすることもある。それに支配され、のめり込む人は、家族や人と楽しく交わる時間は取れない。株の情報が分かる部屋から出られなくなる。部屋を出てゆっくり食べる時間ももたないようになる。瞬時に株は上がることも下がることもある。ある専門家の方が、正直に言われた。「私は、専門家として株をやっていますが、得もするが損もする。非常に難しい」と。お金を楽に儲ける誘惑には、祈りつつ警戒したい。お金は執着する人を蝕む。証し。

II 「人があり余るほど持っていても、その人のいのちは財産にあるのではないからです」：15。

1. 私たちのいのちは、財産にあるのではない。物や財産があっても、死が訪れれば、死後の世界に、自分のお金、物、財産を持っていくことはできない。※救いの狭い門のたとえ。「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべき

かな」(ヨブ1:21)。

2. その真理を主は、16~21節で教えられ→

「ある金持ちの畑が豊作であった。彼は心の中で考えた。『どうしよう。私の作物をしまっておく場所がない。』そして言った。『こうしよう。私の倉を壊して、もっと大きいのを建て、私の穀物や財産はすべてそこにしまっておこう』: 16-18。この金持ちの行動や考えを私たちにも適用し、問題点を深く考えましょう。

- ① 「ある金持ちの畑が豊作であった」。彼は考えた。「どうしよう」。この応答から間違っている。私たち人間は、人生の中で、豊作や労苦が実った時、「どうしよう」ではなく、まず、豊作や労苦への実を下さった偉大な与え主の神に心から「感謝すべき」です。「神様、あなたが与えられた土、雨、太陽、畑の耕作を手伝う人々(※証し)を与えて下さったおかげで、豊作、実が実りました。神様、心からすべての与え主のあなたに感謝し、神をほめたたえます」と神に栄光と感謝を献げましょう！個人でも、教会全体でも、日ごとの糧、一年間の必要が満たされたら、すべての与え主に感謝し、賛美しましょう。もし、必要がある時は「日ごとの糧を今日も与えて下さい」と真剣に祈りましょう。神は、私たちの祈りを真剣に聞いておられます。「私の神は…あなたがたの必要をすべて満たして下さいます」(ピリピ4:19)。
- ② 「そして言った。『こうしよう。私の倉を壊して、もっと大きいのを建て、私の穀物や財産はすべてそこにしまっておこう』: 18。ここでも、この金持ちの所有物への根本的な間違いが記されている。
 - i 「私の倉」ではなく、神が与えられた倉です。「私の穀物や財産」ではなくて、「神が与えられた土、雨、太陽の光、耕作を手伝う人々のおかげで与えられた穀物、財産」です。
 - ii 「しまっておこう」。これも違う。神に祈り、しまっておく分と他の必要、貧しい人々に分け与える分を判断すべき。ある教会も当教会も年間の献金収入の十分の一を必要なところに献げている。神は見ておられ恵みを増し加えられる。自分の教会の事だけでなく過疎化で経済的に苦しくなっている教会を助け合う教会連合、JECA。「十分の一を…私の家の食物とせよ。…わたしを試してみよ。…わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか」(マラキ3:10)。
- ③ 「そして、自分のたましいにこう言おう。『わがたましいよ。これから何年分もいっぱい物がためられた。さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ』: 19。彼はこう言うべきだった。聖書にあるように「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つわすれるな」(詩篇103:2)。彼は、すべての物の与え主を忘れていた。私たちも気をつけたい。何かが与えられた時、それは、すべて主なる神のおかげ、恵みであることを！
- ④ 「しかし、神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取られる。おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか』: 20。偉大な造り主の神は、この豊作で財産を増やした人の魂、いのちを延ばすことも、今夜で終わらせることもおできになる。今夜、彼のいのちがなくなったら、財産を持っていくことはできない。このみことばから私たちが教えられるべきことは、私たちのいのちは、神の御手にあるということです。財産や富があっても、私たちのいのちを支配されているのは、すべての造り主の神です。私たちが、今日生かされているのは、ただ神のあわれみ、恵み、奇跡です。
- ⑤ 「自分のために蓄えても、神に対して富まない者はこのとおりです」: 21。自分の為にだけ蓄える人生、自分の国だけが富むことを求める政治は祝福されない。なぜなら、神が私たちや国々に振り分けられるのは、人々、国々が助け合い、共存するためです。神は他のために与え

る者に、豊かな恵みを与えられます。下に流れる川は、きれいで、他に流さない水は、濁っていく。閉じず開く手に神の恵みは注がれる。

Ⅲ 「自分のために蓄え、神に対して富まない」とは？

1. 「自分のために蓄え」とは、与え主の神に感謝せず、困っている他の人に少しも分け与えず、蓄える事だけに心が縛られ富やお金に支配され富やお金を神とする偶像礼拝の状態。
2. 「神に対して富む」とは→①すべての与え主の神に感謝し神のものである十分の一を捧げ、感謝の事があるごとに感謝献金をする。②神が与えられたものを感謝し、自分の生活や家族の必要に健全に用いる。適度な貯え備え。③困っている人、貧しい方々に負い目を感じさせないように、献げさせていただく。
3. 神と人に献げた後に、自分を誇る事が全くなく、次の祈りをする→「このように自ら進んで献げる力を持っているとしても、私は何者なのでしょう。…すべてはあなたから出たものであり、私たちは御手から出たものを献げたにすぎません」(Ⅰ歴代29：14)。祈りと応答賛美。